

“高き志”をもったグローバルな「トップエリート」を育成

西武学園文理小学校

「正解」を求める知識伝達型学習から、子ども自らが考え判断し「できた！」を実感できる体験型学習へ。バイリンガル教育とプロジェクト型教育に重点をおき、自信をもって自分を語ることでできるトップエリートを育成します。



マルクス ペドロ校長

国際競争が激化し、本格的なグローバル時代を迎える中で、次世代を担う子どもたちが将来、あらゆる場面で世界の人々と対等に伍していくには、深い「洞察力」と的確な「判断力」、そして相手を説得できる「表現力」が不可欠です。こうした中、優れた学習環境と学習効果の高いカリキュラムデザインで「こころ」と「知性」「国際性」を培い、注目を集めているのが西武学園文理小学校（以下、文理小学校）です。

小学生から始まる洗練された言語活動と学びへの動機づけ

本校は西武学園文理中学・高等学校とともに、12年

間一貫教育で21世紀を担う『世界のトップエリート』を育成することを教育の目標としています。

これまでも、系列校の西武学園文理中学・高等学校は東京大学をはじめ、早慶上理など難関大学に多数の合格者を輩出する東京圏屈指の進学校として人気を集めてきました。こうした中、2025年度入試においても小学校卒業生1名が東京大学に合格し、小中高12年間一貫生が2017年度以降、毎年東京大学に合格しています。児童・生徒の一人ひとりの夢を叶えたいという、小中高12年間一貫教育が結実し、花開いた結果です。

その原動力の一つが、文理小学校の代名詞とも言える「英語のシャワーによるBUNRIイマージョン教育」です。

小学校から高校まで12年間一貫の系統的カリキュラムのもと教えられる英語は、無理なく、無駄なく実践的な実力を養成します。授業は、日本人の英語教員と外国人英語講師（ALT）によるティームティーチングによって進められますが、1年生からALTが話す自然な英語に親しむことで、耳と目、口、身体全体を使って語学力を習得することができます。

また、音楽・図工・体育・情報といった教科において

も英語が使われるほか、登校時の挨拶や休み時間、そして児童集会やイベント時の司会なども英語を使用するなど、1日中英語に触れる環境を用意しています。

BUNRIイマージョン教育の狙いは、英語に対する抵抗感を小さくすること。そうすることで、自然と英語でコミュニケーションができるようになります。中庭を使つての朝会や、終業時の連絡事項なども英語で行うので、次第に違和感なく自分の中に英語が取り込まれていきます。その成果は小学校在学中に英検3級以上を全員が取得、準2級、さらには2級まで取得する児童が中学年にも数多くいることにも表れています。

さらに特徴的な取り組みが、高学年で実施される文理小学校ならではの「海外研修」です。5年生のイギリス短期留学ではイートン校やケンブリッジ大学、オックスフォード大学などを訪れ、16日間にわたって、世界中の児童と英語で交流しながら共に学びます。また、6年生のアメリカ研修では、国連本部を訪問したり、ハーバード大学やMITでレクチャーを受けるなど、小学生の域をはるかに超えた活動を展開しています。この費用も基本的に学費に含まれています。

こうした海外での体験を通して、子どもたちは初めて英語が世界中の人々とのコミュニケーションを取るためのツールであることに感動します。それが学びへのモチベーションにつながっています。

もう一つ魅力的な取り組みとして、1年生から学校で1泊2日の宿泊研修を体験させ、4年生では北海道旅行で初めての飛行機やホテル泊になじませるなど、心と体の成長に合わせた宿泊研修を行い、自立と協調の姿勢を身につけさせていることです。常に集団で行動することで、リーダーシップの重要性に気づかせるとともに、その力を引き出し育てています。



5年生イギリス短期留学～イートン・カレッジを訪問



6年生アメリカ研修～国連本部前での記念撮影（上）／現地校の生徒や児童たちに、英語で日本文化を伝える（右）



自ら学び考える習慣を身につける豊富な体験学習・校外学習

AI（人工知能）やICTが社会のさまざまなシーンで活用される時代においては、知識をいかに多く身につけるかではなく、「問題課題に必要な知識をいかに選びとり、つなぎ合わせるか」と、「その知識のつながりをいかに実践に移せるか」がより重要となります。

こうした力を自然と育むために、低学年ではまず学ぶことの「楽しさ」を体感させるために田植え、稲刈り、サツマイモやジャガイモの収穫体験、工場や商店街見学などの、フィールドワークに基づいたアクティブラーニングを多く取り入れています。そして、子どもたちには体験したことについて必ず記録としてまとめたり、感じたことを書かせたりして、体系的な知識になるよう指導しています。また、本物にふれる教育を目指し、さまざまな分野のプロを学校にお招きしてお話し等をしていただく特別講義も実施しています。

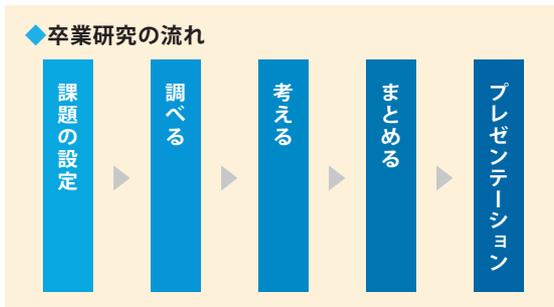
農業体験

本校では、学校から歩いて5分ほどのところに田んぼや畑があり、地元の農家の皆様のご協力のもと、様々な農業体験を行っています。ジャガイモ、サツマイモ、落花生、大根、お米（田植え～稲刈り～奉納）などを収穫するために、年間を通して畑に出かけます。自然の恵みやたくさんの人々への感謝の心を養います。



教室ではタブレット端末（iPad）、プロジェクターを使用した独自の教材による授業も実施し、基礎事項の100%理解を目指しています。英語、情報の授業は1年生から6年生まで継続し、大きな成果を挙げています。さらに、例えば算数では3年生から単元別に得意・不得意を考慮したクラス編成による授業を実施するなど、全教科にわたって児童のモチベーションの向上に細心の注意を払っています。

また、5年生から2年間かけて行う「卒業研究」も文理小学校の特色の一つです。「卒業研究」では、研究内容をスライドにまとめ、スクリーンに映しだし、子どもたち自らが解説します。その際、自分が何に疑問を持ち、どう調べ、何を考えたのかについて、わかりやすく伝えるための高度な表現力を修得します。子どもたちは、こうした研究体験（下図参照）を通じて、次の時代を生き抜く力を身につけていきます。



日本の文化や伝統をしっかりと学び 教養ある国際人を育成

国際社会でリーダーシップを発揮できる人材となるために、西武学園文理小学校では日本の伝統的な文化を正しく理解させることを重視し、礼儀・作法、マナーのほか、

本来身につけるべきことの教育を実践しています。安心・安全に最大限に心を配り、廊下を通ってすべての教室が見渡せるなど学校の「見える化」にも留意しています。

小学校卒業後は、一定の基準を満たすと文理中学校に進学することができます。中学校では、海外をはじめ、難関国公立大学や医学部進学をめざす「アカデミックチャレンジクラス」、高度な英語力と知的土台をベースに、グローバル・シチズンシップを備えた人材の育成をめざす「クリエイティブクラス」、クラブ活動やスポーツ・アートの国内外の大会出場など、活動と教科学習を両立する「スポーツ&アートクラス」の3クラスを設置しています。さらに、2026年4月には「バイリンガルクラス」を開設予定です。

12年間の締めくくりとなる高校では、生徒自らが最適なクラスを選択できるよう3学科7クラスを設置し、生徒一人ひとりの志望大学現役合格に向けて、きめ細かな指導を徹底しています。

小中高一貫して学びの中心は「子ども」、学校は「子どもたちの成長」のためにある場所を合言葉に、従来の講義中心の授業形態だけではなく、子どもたち自らが課題を解決してみたり、新しいものを作ってみたり、「子どもたちが楽しい」と思える授業を展開していきます。

数年後には、小学校においても、すべての教科を日本語でも英語でも行う、バイリンガルスクール化を目指しつつ、これまでどおり、日本文化や伝統もしっかりと学び、日本のために、世界に発信し、そして世界で活躍できる人材の育成に努めます。

本校の教職員一同、児童のみなさんと、たくさん勉強して、たくさん遊んで、日本語と英語を一緒に学びたいと思っています。お子さまのご入学を心よりお待ちしております。



理事長
安達原文彦

平成16年4月に開校して以来、「英語のシャワーで世界のトップエリートを育てる」教育を続け、世界に向かって着実に歩んでまいりました。

西武学園文理小学校の教育方針は「すべてに誠をつくし、最後までやり抜く強い意志を養う」のもと、「こころを育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」ことを重点目標として教育実践を行っています。

人としての豊かな心、先人の知恵に学び創造する知性、日本人としてのアイデンティティをもって国際社会で活躍する力、これらすべてを身に付けて未来をリードすることができる人材＝世界のトップエリートの育成を目指しているのです。

子どもたちが将来、自分の能力を活かす場を世界に求め、グローバルに活躍できる力を身につけられるよう、学ぶ力を習慣化し、常に自らを進化させる意欲をもつよう指導し、保護者の期待や社会的要請に応えていくのが、西武学園文理小学校の使命です。